

久瑠あさみの  
奇跡のビジョン

くる・あさみ

トップアスリートや経営者、ビジネスパーソン向けに、個人メンタルトレーニングを行う傍ら、リーダー研修や講演会など、活動は多岐にわたる

その時の Vol.04

# “気持ち”ひとつで 未来が動く



## 自分を越える瞬間 アクセルを踏みましょう

物事が上手くいきすぎているとき、突然、不安に襲われるようなことはありませんか？たとえば、今までにないような営業成績が出たとき。ある月の前半、過去の成績の倍の売り上げが上がったとします。こういった状況に直面すると多くの人は、「凄いこともあるもんだ」、「こんなのはずがない」な

どと思いがちです。すると、人は無意識のうちに自分にブロックをかけ、その先に広がる可能性に限界を設けてしまいます。人間はどうしても過去の自分を基準に、未来を決めようとします。「自分には上手くできっこない」と考える人は、自分の人生に奇跡的な変化がおこることを認めません。たとえそれがプラスの変化であつたとしても、拒んでしまいます。結果的には、また元通りの成績に戻るうとし、急降下する成績に安心感さえ覚えてしまうのです。

「過去の経験」は時として足かせとなる

たとえば険しい山を登っている時、ふと来た道を見てしまうと、足がすくんでしまうことがある。頂上だけを見て駆け抜けば、足が止まることはない

## 「自分はもつといける」。 絶好調の連鎖を生み出そう

そこで必要となるのが「勘違の才能」です。自分の未来に関する素敵な勘違いをしていく。この勘違いの才能を活用するタイミングを、逃す人が思ひのほか多いのです。

「勘違いの才能」とは、  
言い換えてみると、  
「そこからさらにアクセルを踏みこむ才能」

ここまで読めば、前々回で紹介した新人若手女子ゴルフアーチが、どうして勘違いの才能のと違う「猛烈に調子のいい自分」をすんなりと受け容れられる。この「勘違い」の芽を摘んでしまっては、成長は見込めません。

問われるのは、自らの人生における「凡」を、いつもと違う「非凡」に変えるマインド力があるかどうか、なのです。あなたはどうでしょうか。まだ起きていない未来のことに対しても、きっと上手くいく。そう根拠なく思えますか。

未来が  
動く  
今月の  
ひとこと

変化を受け容れて  
さらに羽ばたく。  
そうすれば  
限界はなくなる

絶好調のはずが  
後半大崩れ。  
よくある現象

普段は90前後で回るゴルファーが、たまたま前半のハーフで35を出したとする。その時、その人の頭の中によぎることは、大抵が、こういった考えだろう。「こんなマグレだ！」本来、喜んで受け容れるべき「絶好調」な自分を受け容れられないどころか、逆に不安を覚えてしまう。さらには調子を崩すと「やっぱりこんなもんだよな」などと、妙に納得してしまう。

自分の中に起つた変化を拒むか、さらなるアクセルを踏めるか。そこに「凡」と「非凡」の違いがあるのだ。



ゴルファーに例えると……